



特定非営利活動法人

東京学芸大子ども未来研究所

Tokyo Gakugei Univ. Children Institute for the Future

TECH未来通信

2022.SEP
VOL.052



〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
東京学芸大学内20周年記念飯島同窓会館1階
042-316-6645 ✉info@techmirai.jp

TECH未来を使ってきた先生方(その31)

茨城県でのTECH未来

今回は、北茨城市立中郷中学校の芳賀洋介(はが ようすけ)先生にお話を伺いました。

芳賀先生は、今年度のTECH未来活用カコンテストにもご応募くださっています!そんな芳賀先生にインタビューしました。

ー現在、教員何年目ですか？

教員19年目(中郷中勤務は3年目)

ーTECH未来を使用して何年目ですか？

6年目(前任校から本格的に使用し始めました。)

ー具体的にTECH未来を使ってこれまでにどのような授業を実践してきましたか？

スタートは「PETボトルを引き上げる装置の設計・製作」でした。その後、「簡易電気自動車の模型の設計・製作」の授業実践を経て、現在はメインとして「問題を解決するための装置のモデル化」の授業実践を行っています。中学校第2学年の技術・家庭科(技術分野)において、身の回りに潜む不便な事象を解決するための仕組みのモデル化と称して、探究のプロセスや情報活用能力、PBL型学習などと関連させながら実践しています。

ー活用カコンテストへ参加されてみていかがでしたか？



授業内で製作したものをコンテストに出品するというこで、生徒たちのクラスを一つの企業として見なし、各グループを企業におけるそれぞれのプロジェクトチームと設定しました。生徒たちはチームで単に何かをつくるという活動ではなく、技術の見方・考え方を働かせつつ、生活や社会における技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策が最適なものとなるよう試行錯誤していました。最終的には企業(クラス)内プレゼンを行い、コンテストに出品する作品を決定するため、意欲的に取り組む姿が随所に見られました。

ー今後TECH未来でどんなことをしてみたいですか？

より実社会の開発プロジェクトをイメージしながら、TECH未来を効果的に活用し、よりモデル化の精度を上げていきたいです。力学的な機構はもとより、電気回路の工夫がもっとできるようスイッチだけでなく、センサやキャパシタなどの活用もできないか検討していきたいです。

ー最後に一言!

「夢を現実にする力は無限大」を私は「夢現(むげん)力」と言っています。夢に向かって努力することに限界をつくらない。勉強もスポーツもそうでありたい。技術分野で言うならば、「こんなのがあったらいいな」という人の希望や願望は、技術の進化・発展の原動力です。技術科教員として、生徒たちに技術のおもしろさ、ものづくりの楽しさをもっともって感じてほしいです。私はその一助になりたいと思っています。

編集後記

夢現力、素敵な言葉ですね!ぜひ芳賀先生の実践もぜひ一度拝見してみたいです!ありがとうございました!